

## 南ア大胆なルール改革の試み

### 参考リンク

[http://news.bbc.co.uk/sport2/hi/rugby\\_union/6136244.stm](http://news.bbc.co.uk/sport2/hi/rugby_union/6136244.stm)

[http://news.bbc.co.uk/sport2/hi/rugby\\_union/6165032.stm](http://news.bbc.co.uk/sport2/hi/rugby_union/6165032.stm)

南アフリカの Stellenbosch University の学生たちによるルール改革の大胆な試みを知って感心しました。ラグビーを愛する若人たちの熱意に感動し、勉強の必要性を痛感しています。

IRB でもルールの検討委員会を設けています。

We are looking at the game in a new light with the idea of making it simpler and easier to play and referee, and to ensure Rugby is understood and enjoyed by the increasing number of spectators that are being attracted to the game.

南アの新しい試みは、IRB への感謝からスタートしています。IRB は players, fans, sponsors, medias などの appeal が大きいことを歓迎していますし、この試みに対しても課題を解決する key になるのではとも考えているようです。

「改革紹介」の文面に従って改革の要点の内容を考察しましょう。

- ・「law と modern game マッチしていない」  
スピーディで躍動的な現代ラグビーが求められていることを率直に認め、マンネリズムに陥ることなく積極的な姿勢で対しています。
- ・「law を読んでゲームをみるとゲームに本当に反映していない」  
ラグビーの歴史と面白さを認識し、ルールに書かれている精神・ルールの3つの意志（作成の意図）が生かされていないことは残念なことです。
- ・「ラグビーの基本的なことを説明するのに5分もかかる。テニスなどごく簡単」  
ラグビーは分かりにくいという意見が非常に多い。その評判が多くの人をラグビーから遠ざけてしまっています。
- ・「law いくらかの部分は unrefereable である」  
レフリー泣かせで済ますことはできません。レフリーはプレーとルールの文字面を突き合わせることに必死である現状は good, bright, interesting Rugby に程遠いものです。
- ・「もっと easier, faster, more open にすべき」  
IRB のルール検討方向と同一です。  
現在のゲームはルールの3つの意志（作成意図）が十分生かされていません。
- ・「can でなく cannot が多い」  
現在の第7条は、歴史的には、してもよいプレーを列挙したもので、law は本来 can(may) が本質で positive なもので、ゲーム中のいろいろなケースが提起され議論されて細目が加わり、禁止事項が加わり、罰則が加わったのです。

改革の発想は実に新鮮で明解です。ピュリストの警告を覚悟しながらも：

- ・「ラックでボールを手で扱う」  
ボールを持って走ることが認められ、football から handling game になった時にも、scrummage の中のボールは手で処理することは認められませんでした。それは、危険であったからです。ラックに加わる人数が時には2~3人と少なくなっていることも改革へ一歩踏み出す理由の一つと言えるでしょう。
- ・「モールが崩れることもありうること」  
ドライブしては止まって又ドライブというプロセスで相手側はなされるままにずるずるさがるという場面で、スマザータックルの如く止める努力が認められるべきです。  
以上、問題点に真正面から真剣にとり組んでいます。

改革・創造への大胆な試みをするにあたって、次のように言っています。

- 「ゲームは将来そのようになると本当に信じている」
  - 「ゲームはより良く、より容易に、もっと面白くなる」
  - 「ゲームの持っている良い点 identity を損なうことはない」
  - 「ゲームは all shapes and sizes の多くの人のためのものであるということは great thing 重大なことである」
- それぞれの言葉に、愛するラグビーを「もっと多くの人」と「もっと楽しみたい」という

願望が滲み出ています。

試みは、急激な改革を願うものではなく、次の W 杯の先を視野にいれたものです。

ルールを守るとは、ルールを作った人間が、競技を楽しむために、ルールの精神を生かして戦うことです。この試みは、ルールの精神を積極的に具現する姿勢の現れで、長い歴史がある local rule の現代版です。ラグビーを心から愛し楽しもうとする若人たちの情熱に敬意を払い、賛辞を惜しまない者です。

この改革の研究は、現代ラグビーに対する視点を高め、視界を広め、低迷する日本のラグビーの課題を解決するのに役立つ重要なものであると思います。

2006.XX.XX

西川 義行